

徳島駅前再開発

徳島市の表玄関である徳島駅前（寺島駅（徳島駅）の開業以来いろいろ変化してきた。第二次大戦中に防空地帯をつくるため眉山天神下から駅に至る地域の強制立ち退きが行われ、戦後、幅員五〇メートルの道路として整備された。また、戦災復興都市計画で、この道路の中央の緑地帯にワシントンヤシが植えられ、南国のイメージあふれる県都の顔が作りだされた。

戦後、駅前一带にはヤミ市が立ち並んだが、経済の復興と共に姿を消していった。ヤミ市が最後まで残った駅西の「ローガン小路」周辺も現在は駅前ポッポ街として若者に人気のある通りに変貌を遂げた。

また、昭和四十年代から進められてきた徳島駅前西地区市街地再開発事業は、内町小学校移転跡地を中心に昭和五十七年から再開発ビル建設（地下二階、地上十一階、延床面積八万八〇〇〇平方メートル）に着手、同五十八年九月に竣工、翌十月にオープンした。この「アミコ」ビルには、さとう百貨店をはじめ専門店・ホテルとともに、公共スペース（シビックセンター・公民館・駐車場）などを有し、駅前周辺の整備とともに、県都の顔をモデルに一新した。

今後、J Rの鉄道高架化や徳島駅の民衆駅化する進展によって、再び駅前が大きく変容するであろう。